



MYスイート
ホーム



reimeihiro

「ただいま」 私はそう言いながら、玄関のドアを開けた。

「おかえりなさい、あなた」

台所の方からだろう。彼女の声が聞こえてきた。

それと同時に、美味しそうな夕飯の香りが漂ってくる。どうやら、今晚はカレーらしい。

「お風呂に入る？それとも食事がいいかな？」

「うーん、風呂に入るかな～」

しばらく悩んだ末私はそう答えた。

「ちょうど良かった！さっき沸いたばかりなのっ♪」

その声を聞き、私は脱衣所へと向かう。

汗臭い下着を脱ぎ浴槽を覗くと、心地よい湯気がたち登っている。

彼女の仕事はいつも完璧だ。いつも私がして欲しいと思う事をしてくれる。

恐らく風呂から出たら、一杯のビールと、つまみが用意されている事だろう。

浴槽につかりながらそんな事を考えていると、彼女が洗濯にやってくる。

私と彼女は、風呂場のドア越しに、会話を楽しんだ。

今日見てた TV の話しや、二人が好きなドラマやスポーツなど、何気ない会話が心地良い。

しかし彼女は一緒にお風呂に入ろうと誘うと、

「恥ずかしいから」

と言って断ってくる。

そこがまた、彼女の可愛い所なのだ。

私が食事をする間が彼女の風呂の時間だ。風呂場から、お湯の音が聞こえてくる。

今のような気持ちを幸せ、とでも表現するのだろうか？

私は充実感に満たされて行くのを感じていた。

そして後片付けがあると言う彼女におやすみの挨拶をし、私は眠りにつく・・・。

「おやすみなさい。いい夢を・・・」

翌日、私のタブレット PC に一通のメールが届いていた。

「弊社オリジナルソフト「スイートホーム」体験版をご利用いただきまことにありがとうございます。

本日正午を持ちまして、お試し版「スイートホーム」の利用期間が終了いたします。
製品版へのアップグレードをして頂ける場合は、このメールに付属の12桁のキー番号と
お手持ちのクレジットカードの登録をお使いの端末より入力頂けるだけで、
引き続き「スイートホーム」をお楽しみ頂けます。
尚、アップグレードをされない場合、自動的にソフトウェアは削除されます。
今後とも弊社ソフト「スイートホーム」をよろしく願いいたします。」
あー、もうそんな期間が経っていたのかあ。楽しい時というものは時間がたつのが早い。
私は時計を確認しつつ、記載されたキーとクレジットカードの番号を打ち込んだ。
もちろん「スイートホーム」の購入は決めていた。

西暦2050年日本では、結婚していない高齢の男性を筆頭に、擬似結婚生活システム

「Sweet Home」が流行していた。

各家庭に設置が義務付けられている端末コンピュータにこのシステムを組み込むと、
炊事、洗濯、掃除はおろか、なんと会話さえもこなしてくれるのだ。

本来は、高齢化社会に向けた自動家事制御システムとして売り出されたのだが、
大手ゲーム会社により、独身男性向けの擬似結婚体験システムとして発売され、
現在では女性用も販売されるまでに人気のコンテンツとなっている。

しかも、購入者の好みによって、様々な女性、または男性タイプ、
例えば、年齢なら20代～60代、好みの声優、甘え上手、ツンデレなどなどである。

そしてこのコンテンツは、海外のニュースでも取り上げられる程の社会現象にまで発展した。

発表当初は、このシステムの登場によって結婚しない男女が大幅に増加するのでは？
との懸念も浮かび上がったが、その心配はなかった。

何故なら、

「声だけで姿を見せてくれない」

という、ごく当たり前すぎる欠点だけは、どうやっても修正できなかったからである。